

# 青木明子

JOSHIBI no.189



## 女子美術大学広報誌

発行 学校法人女子美術大学  
〒166-8538  
東京都杉並区和田1-49-8  
企画・編集 総務企画部広報グループ  
監修担当 伊藤雅敏・李谷吉也  
デザイン協力 株式会社 Kitchen Sink.  
印刷 株式会社ヒーローズ  
発行日 2019年6月1日  
©2019 学校法人女子美術大学

広報グループでは女子美のニュースを募集しています。お気軽に下記までお知らせください。また、本誌の定期購読をご希望の方は、お送り先を広報グループまでご連絡ください。

TEL 042-778-6123  
E-mail prs@venus.joshi.ac.jp  
URL <http://www.joshi.ac.jp>

# 答えがない。 だからファッションは面白い。

AKIKO AOKIを手がける青木明子氏。

今、国内外で最も注目される

若手ファッションデザイナーのひとりです。

「24時間、ファッションについて考え続けてきた」

と言い切る氏の足どりと、

創ることへの思いに迫ります。

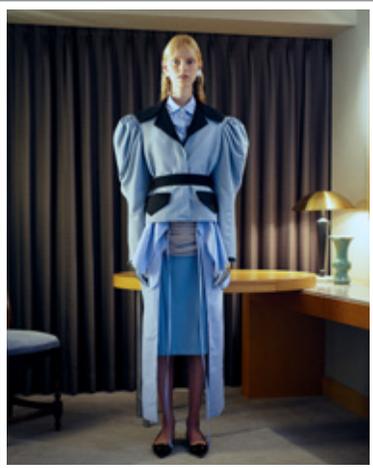
Photo 池野詩織 Text 立古和智

ファッションに目覚めたのは、幼稚園児の頃です。制服の着用が義務づけられた厳格な幼稚園に通っていたから、好きな服をコーディネートできる週末をいつも心待ちにしていました。自分でも服を作ってみたいと思うようになったのは小学生のときです。心から着たいと思える服を自由帳に描き溜めたり、架空のブランド名を考えたりしては、空想を膨らませていました。夢を叶えるために、美大でファッションを学ぼう。そう心に決めたのは高校1年生のときです。美大を志望したのは、ファッション以外にもさまざまなジャンルのものづくりに触れることで、優れたデザインを生み出すペースとなる「考え方」を磨きたかったからです。なかでもファッションに特化し

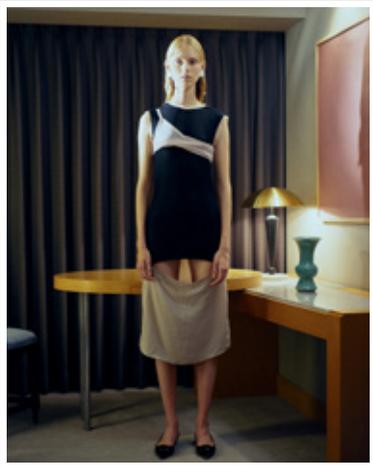
た「ファッション造形学科」がある女子美は魅力的でした。実際、ここはデザイナーとしての基礎を固めるのに最適な学び舎です。染め、織りといった技術を習得できるのももちろん、自分の作品の魅力を伝えるのに役立つ写真の撮り方まで、あらゆる角度からファッションを学べました。客員教授の山本耀司さんや、卒業生の野田風さんといった錚々たる顔ぶれの方々から吸収することも多かったですね。トップクリエイターと間近に接する機会があると、成長への意欲がグッと高まります。ほかにも同世代のクリエイターたちとファッションショーを催したことをはじめ、一生ものの思い出は数え切れません。何よりも「日中ファッションについて考えていられることが幸せでした。ちなみに

青木明子（あおき・あきこ）

2009年、女子美術大学芸術学部ファッション造形学科を卒業後、英国へ留学。帰国後、MIKIOSAKABEでの勤務を経て、2014年に独立しAKIKO AOKIを立ち上げる。2018年には「毎日ファッション大賞・新人賞資生堂奨励賞」を受賞。同年、『LVMHヤングファッションデザイナープライズ』のセミファイナリストにも選ばれる。



AKIKOAOKI 19SS  
歴史衣装からインスパイアされたジャケット



AKIKOAOKI 19SS  
レイヤードスタイルのドレス



AKIKOAOKI 18AW  
変形パフスリーブシャツとジャンパードレス



仕事とプライベートとをきっちり区別するクリエイターもいますが、私は真逆です。いつでもファッションのことを考えていたい。私にとっては、生活のすべてがものづくりのヒントを得る絶好のチャンスです。女子美での充実した4年間を過ごすなかで、こうした創作スタイルが自然と身に着いていきました。

卒業後はロンドンへと留学する道を選びます。女子美で講師をしていただいた安達市三先生に、留学経験者を紹介してもらったことがきっかけです。ロンドンという日本の常識が全く通じない土地で学んだ経験は、私のデザイン幅を大きく広げました。自分自身

のブランドを立ち上げたいと、明確に意識したのもこの頃です。帰国後は、坂部三樹郎さんのアシスタントを経て、2014年に「AKIKOAOKI」を立ち上げます。自宅を作業場に10

着ほどの小さなコレクションを作るところからスタートして、単独でファッションショーを開催するようになったのが2016年。幸いにも2018年には「毎日ファッション大賞・新人賞資生堂奨励賞」を受賞したり、「TVMCHヤングファッションデザイナープライズ」のセミファイナリストに選出されたりと、評価をいただく機会にも恵まれました。幼稚園から高校生までの15年間を制服

で過ごした生い立ちから出てきた「規則のなかでの自由」という全コレクションに通底するテーマが、少しずつ世に伝わってきたのかもしれない。

創作にあたって大切にしてきたのは、常に少しでも「背伸びをする」こと。具体的には新しいコレクションには必ず苦手とするテイストのデザインをいくつか忍ばせています。自分に負荷をかけることで予想がつかない新たなデザインが生まれる可能性が高まるからです。その「新しさ」こそが、毎シーズンのコレクションに新鮮さを吹き込んでくれます。今後は優れた作品を発表していくことはもちろん、ビジネス面でのスケールアップ

でも果たしたい。目標はAKIKOAOKIを世界で通用するブランドにすることです。日本発のブランドとしての独自性は

はいかに表現すればいいのか。日本の風土や人に固有の「湿度感」や「陰影」がキーワードになりそうだという直感があります。答えを出すまでにはもう少し時間がかかりそうです。そもそもファッションには決まった解答はありません。仮に答えが見つかったと思っても、時代が変われば別の答えが求められます。それがファッションです。そここそ面白さがあります。変わり続けることが宿命のファッションを、私はどこまでも追いかけていきたいですね。



**吉田ユニ** (よしだ・ゆに)  
1980年東京都生まれ。女子美術大学芸術学部デザイン科造形計画専攻卒業。大貫卓也氏のデザイン事務所を経て、野田尻氏が主宰する宇宙カントリーに参加し、2007年に独立。アートディレクターとして広告デザイン、プロダクトデザイン、装丁、CDジャケットデザイン、パッケージデザインなど各方面で活躍。



**中嶋貴久** (なかじま・たかひさ)  
1971年埼玉県生まれ。東京藝術大学大学院デザイン科修士課程修了。電通入社。2013年ntD設立。広告のアートディレクションを中心にCI、パッケージデザイン等グラフィックデザイン全般を手掛ける。東京ADCグランプリ、朝日広告賞グランプリ、毎日広告賞最高賞、日経広告賞最高賞など受賞多数。2012年より本学非常勤講師。



**澁谷克彦** (しぶや・かつひこ)  
1957年東京都生まれ。東京藝術大学デザイン科卒業。資生堂宣伝部入社。インハウスのデザイナーとして資生堂広告のアートディレクションやグラフィックデザイン、広報誌「花椿」の編集デザイン、グローバルブランドのトータルクリエイティブディレクションを手掛ける。亀倉雄策賞など受賞。2017年より本学教授。

若手女性クリエイターとして活躍されている吉田ユニさんは、我々の先輩です。相模原キャンパスにおいて、アートディレクターの中嶋貴久先生と澁谷克彦先生の三人による特別授業が行われました。

広告デザインの分野でご活躍をされている三人ですが、それぞれ違った道りを歩んできました。中嶋先生は、広告代理店の株式会社電通を経て、現在はご自身のデザイン事務所を設立し活動されています。澁谷先生は、株式会社資生堂という化粧品メーカーの宣伝部において自社ブランドの広告やブランディングを手掛けてきました。ユニさんは、デザイナーの大貫卓也氏に師事し、現在はご自身のデザイン事務所を設立し活動されています。三人の学生時代から就職活動、そして作品やお仕事についてのお話を伺いました。ユニさんの就職活動は、今のご活躍につながるとてもパワフルなものでした。

「2年生のころは就職のことはまだ



考えてなくて、のんびりしていました。みんながソワソワして、3年生から焦り出しました。そのころ広告の授業があり、制約があるなかでどれだけ伝えられるか、ということに面白味を感じました。広告の仕事をしたかったと思いついて、次にながしたいのかを考え直しました。ご自身が代理店や大企業向きではないと考え、大貫卓也さんのデザインが好きだったことと周りの勧めなどもあって、直接大貫デザイン事務所に作品を見てもらいに行っただけです。

「今ならそんなことできないのですが、最初に電話したら、作品を送ってくださいと言われて、きつと見てもらえないだろうなと思ったので、アポなしで直接作品を持っていったんです。アシスタントの方が出ていらして作品を預けました。そしたら電話が来てちょうどスタッフを募集しようとしていた時だったそうで、作品を見ていただいて1次試験に受



納得できるものを創りたいという思いがありました。その思いを支えてくださったのは、クライアントです。旭化成株式会社の方、社会問題と旭化成の技術という企業広告のシリーズを我々に全面的に任せてやらせてくださったことにはとても感謝しています」

澁谷先生は、メーカーのインハウスデザイナーの立場でお仕事をされました。

「資生堂のデザイナーは自分たちがクライアント、基本的には定時に働くことが可能なので、パッケージデザインや試作など、スケジュールを自分に合ったペースで作りやすいと思います。女性で子どもを育てて復職する人もいて、そういう仕組みが会社にはあります。一方でマーケティングなど他部門の人にデザインを理解してもらうことには苦労しましたが、海外の現場などで彼らにクリエイションの場を見せることで信頼関係が生まれました」

三人の多様なご経験を知ることによって、デザインやクリエイションという分野で仕事をするための心構えや自分があった方向性、さらにどんな働き方したいのかを考えるヒントをたくさん頂くことができました。

かり、2次に進みました。課題が出て、原宿のラフォーレの広告案をできるだけ考えて出さないと言われたのですが、できるだけ出さなかったらダメで、100案くらい出しました。その量とかアイデアで、すごく根性があると思ってもらったみたいで採用してもらえました。不思議な流れでしたね」

ラフォーレのお仕事は、大貫事務所時代も、現在もユニさんを代表する活動となっているので、その第一歩が採用試験の時にあり、そこから着実に自分の実績と信頼を築いてこられたことに驚かされます。

デザイナーという仕事は、立場によってクリエイションのやり方が異なるものです。中嶋先生が広告代理店で自らのこだわりを貫いてきたご経験には多くの示唆がありました。

「電通は代理店なので、クライアントの課題を探るところから始まって、マーケティングやプロモーションなどいろいろな仕事をしますが、基本的には発注です。手を抜こうと思えば手が抜けてしまう。僕より上の世代で活躍していた人は、ディレクタータイプで、自分は手を動かさないという人が多かったのですが、僕は自分が





**佐藤 暁子**  
芸術学部 アート・デザイン表現学科  
メディア表現領域  
准教授

女子美は個性が尊重されることです。とことん自分と向き合ってもよし、積極的に外に出て行動をしてもよし、誰かと比べたり誰かの真似をする必要はありません。好きなだけ自分の世界を創造してください。それが積み重なってみんなで大きな女子美力を創っていきます。この女子美力ってすごいです。先輩達を見ていたら分かりますよ。あなたの力となり武器になっていきます。この女子美力を身につけ、あなたの世界を社会に発信していきましょう。

女子美術大学デザイン科卒業、CGデザイナー、女子美術大学メディアアート学科助手を経て、東京大学生産技術研究所特任研究員。科学を可視化するサイエンスビジュアルライザーという職を創出。芸術科学会理事。



**金 多賢**  
芸術学部 アート・デザイン表現学科  
メディア表現領域  
助教

テクノロジーの進化でいろんな表現手法を活用できるようになり、美大生には更なるクリエイティブな表現力が求められています。皆さんには女子美術大学でそのクリエイティブな表現を確立させるために学んで挑戦する時間を過ごしてほしいと思います。まずは「好き」を「形」にする表現を多様な手法で試みてください。そして、社会におけるアートとデザインの役割を研究し、自分が行う表現の可能性を考えてみてください。この積み重ねが、更なるクリエイティブな表現を生み出してくれると思います。

1983年韓国生まれ。大学卒業後、デジタルコンテンツ制作会社「Tween Fix」設立。筑波大学大学院感性認知脳科学専攻博士前期・後期課程修了。地域活性化学会会員。2018年絵画と映像のコラボ展「線、つながる」を開催。



**村岡 貴美男**  
芸術学部 美術学科  
日本画専攻  
教授

日本画は今も変わり続けています。従来だとあまり使われなかった表現やモチーフを取り込んで行った結果、日本画らしくない、と叩かれる事もありました。しかし、それさえも日本の姿を写しているように思えます。この何でも有りとなった状況で、型だけの伝統ではなく、流行だけの新しさでもない「自分にとってのリアル」「自分にとっての今」を追求して行って下さい。

1966年京都府生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程日本画満期修了。2016年まで同大学日本画研究室助手、助教、講師。日本美術院賞、大観賞。現在日本美術院同人。



**堀込 幸枝**  
芸術学部 美術学科  
洋画専攻  
助教

大学生活は創作の日々です。自らを表現することは、否が応でも自分の良いところや悪いところと向き合わなくてはなりません。創作の過程で自分と対話を重ね、本当の自分を見つけ出していく作業は苦しくもありますが大きな喜びがあります。みなさんには多様な表現と他者との交わりの中で、たくさんの新しい自分に出会ってほしいと思います。女子美には個性を見つける教員と仲間がたくさんいます。女子美で見つけた自分は、この先も様々な世界で力を発揮してくれると思います。

1981年宮城県生まれ。女子美術大学大学院美術研究科美術専攻修士課程修了。絵画教室講師、2014年より女子美術大学洋画非常勤講師。2008年よりギャラリー椿にて隔年で個展開催。その他国内外のアートフェアなどに出品。

退職された  
先生方

大学院 教授 淵田 隆義	芸術学部 美術学科 洋画専攻 教授 向井 三郎
芸術学部 教授 勝又 俊雄	美術学科 日本画専攻 教授 橋本 弘安 (2019年5月31日付)
教授 田桐 正彦	美術学科 芸術文化専攻 教授 原 聖
講師 佐藤 美智子	デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 教授 飯村 和道
	アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域 教授 ヤマザキ ミノリ



学校法人女子美術大学  
理事長 福下 雄二

本学は、今から119年前、横井玉子、佐藤志津という二人の女性により、芸術による自立した女性の育成を建学の精神として創立されました。来年2020年に創立120周年を迎える歴史と伝統を誇る大学であります。今日に至るまで、芸術の分野だけでなく社会のあらゆる分野で活躍する数多くの卒業生を輩出してまいります。皆様には、本学の歴史や創立者をはじめとする先輩方の生き方を学んで下さい。そして、人と人との出会いや御縁を大切に、良き友人に恵まれ、良き先生に巡りに、良き書物に出会えるよう努力していただき、豊かで充実した学生生活を送って下さい。皆様の力によって本学の歴史と伝統をより輝かしいものに築き上げていただくことを期待しております。

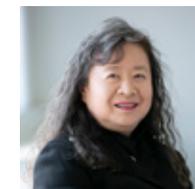
新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。1900年に創立した女子美は、女性の自立を建学の精神として今年で119年を迎えます。賢母良妻の考えが主流だった当時の女子教育の中にあつて革新的な学校の登場でした。この精神は現在まで受け継がれ、多くのアーティストやデザイナーを輩出してきました。また、起業する卒業生も多く、職種も多岐にわたります。考える力を身に付け活躍の場を広げた結果といえます。大学生活では学科専攻領域を超えて自由に参加できる商品開発プロジェクトや異分野と協働で行うプロジェクトがあります。また、海外で行うインターシッピングや留学制度なども充実しています。行動することだけでなく、モノと出会い、たくさんの人とつながります。正課授業で習得する知識や技術に加え、正課外のプロジェクトに参加することで出会うモノやコトを最大限活用し、学科を超えた仲間たちと体験を通して成果を上げられることを期待しています。



短期大学部部长  
後藤 浩介



芸術学部長  
松本 博子



大学院美術研究科長  
内山 博子



副学長  
山野 雅之

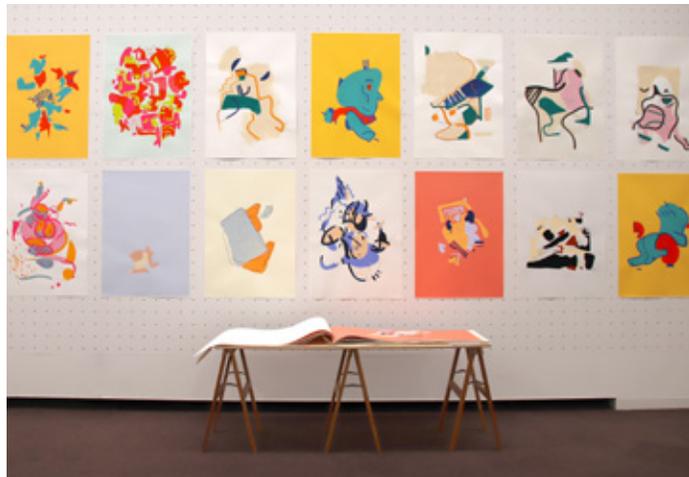
# 東京都美術館に女子美生が大集結

## 「JOSHIBISION 2018 ―アタシの明日―」

3月1日～6日まで東京都美術館で開催された「JOSHIBISION 2018 ―アタシの明日―」は今年度で4回目の開催となりました。「オール女子美」のスローガンのもと、本学大学院、芸術学部、短期大学の各研究室から選ばれた35名の作品と、付属高等学校の卒業制作の作品を一同に展示。また、昨年に引き続き本イベントのディレクターを務めた短期大学造形学科教授山本雄三先生のディレクションにより、本学卒業後、アーティストとして活躍の場を広げている5名の卒業生、いしばしめぐみさん、牛嶋直子さん、太田絵理さん、中村萌さん、藤沢まゆさんの作品も特別展示されました。展示のタイトルである「JOSHIBISION」は「JOSHIBI×EXHIBITION×VISION」を縮めた造語です。今を生きる、等身大の学生たちのさまざまな視点が集まり、ともに未来を見つめていこうというメッセージ

が込められています。絵画、立体、デザイン、工芸、映像、ファッションなど、分野を問わず集結した作品は会場を埋め尽くし、来場された方々が足を止めてじっくり作品を鑑賞する姿が印象的で、見応えのある展示となりました。初日にはオープニングレセプションも開催。特別招聘教授の假屋崎省吾先生、本学卒業生で現代アーティストの小松美羽氏、本学卒業生でハローキティデザイナーの山口裕子氏、NHKデザイナーセンターデザイナーの岩倉暢子氏、グラフィックデザイナーの菊池敦己氏、アートディレクターの信藤三雄氏、美術史家の本江邦夫氏ら7名を審査員としてお招きし、各審査員の名前を冠した賞の発表と表彰式を執り行いました。受賞した学生にはそれぞれ、審査員から受賞に至った作品への感想、楯と花束が贈られ、受賞した学生から今後の制作についての意気込みや、作品に込めた自身の想い、受賞した感想などを述べました。また、企業や画商、ギャラリーの方々をお迎えし、学生たちにとって学外の方々に作品を見ていただける意見交換や交流の場となりました。

※2019年3月時点での学生を掲載しています



【菊池敦己賞】 大学院美術研究科 デザイン専攻 博士前期課程 ヴィジュアルデザイン研究領域 2年 卓 樹



【假屋崎省吾賞】 大学院美術研究科 デザイン専攻 博士前期課程 プロダクトデザイン研究領域 2年 福岡 蘭



【本江邦夫賞】 大学院美術研究科 美術専攻 博士前期課程 立体芸術研究領域 1年 玉田真理



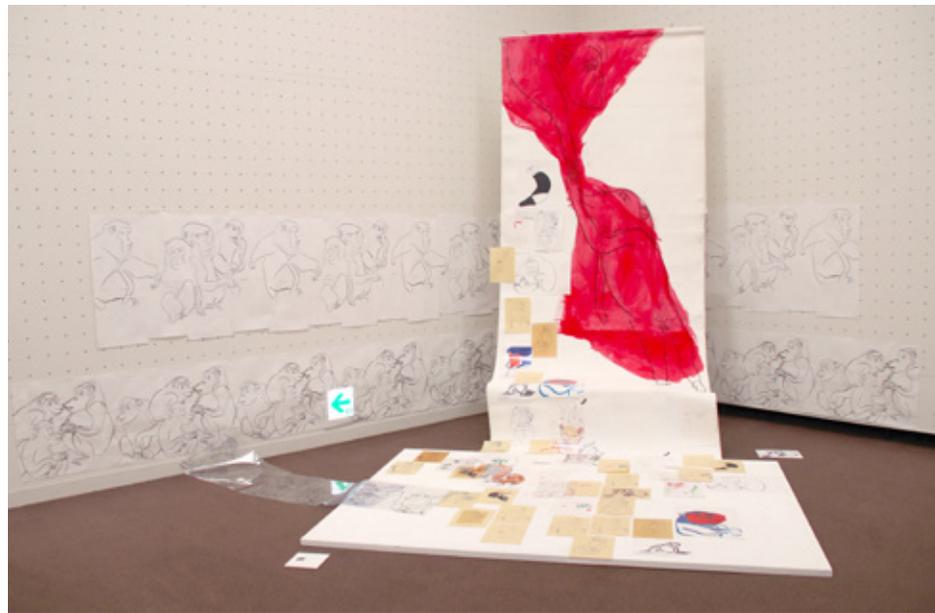
【小松美羽賞】 芸術学部 美術学科 立体アート専攻 3年 増井 萌



【信藤三雄賞】 短期大学部 造形学科 デザインコース 2年 北野なつ美



【岩倉暢子賞】 芸術学部 美術学科 洋画専攻 3年 村野万奈



【山口裕子賞】 芸術学部 美術学科 洋画専攻 3年 竹中通香

# 特別公開講座 宇宙・人間・アート

芸術学部アート・デザイン表現学科では、広い視野でアートを考えていくことのできる人材育成を行う一環として、各界の第一線で活躍されている先生方を講師にお迎えし、一般の方も聴講可能な特別公開講座として「宇宙・人間・アート」の授業を開講しています。



萩尾望都客員教授  
「SF」と「トランスジェンダー」

本学客員教授であり漫画家として数多くの作品を生み出している萩尾望都先生をお招きし、「SF」と「トランスジェンダー」に焦点を当てた講座が行われました。デビュー当時、少女を題材に描いていた萩尾先生が男子を描くようになった経緯、「そもそも性とは?」という疑問から生まれた『11月のギムナジウム』やSFでのトランスジェンダーを描いた『11人いる!』の他、『Marginal』等多くの作品について当時の原稿をスライドに投影しながらお話をいただきました。進行役の本学アート・デザイン表現学科メディア表現領域教授の内山博子先生との掛け合いから、萩尾先生の作品の着想やカラー原稿の技法、次々と披露されるお話に来場者の方は熱心に耳を傾けていました。



イルカ客員教授  
「生物多様性と絶滅危惧種」

本学客員教授で、シンガーソングライターのイルカ先生をお招きした本講座のテーマは「生物多様性と絶滅危惧種」。本学の短期大学部卒業生のイルカ先生は、ものづくりがしたい想いから本学に入学され、フォークソング同好会に出会いフォークグループを結成。卒業後はシンガーソングライターとしてはもちろん、絵本制作や環境活動などさまざまな取り組みで活躍されています。講義では、イルカ先生が作詞・作曲された歌をもとに描かれた絵本『まあるい いのち』をスクリーンに投影して朗読いただいたほか、イルカ先生がご自身でデザイン・手描きから染めまで行った着物や帯をご紹介。絶滅危惧種に指定された動物がモチーフに描かれた素敵なお着物と、その制作時の様子をお話をいただきました。



山崎直子客員教授×竹村眞一先生 対談

本学客員教授の山崎直子先生と京都造形芸術大学教授の竹村眞一先生との対談では、山崎先生から本講座のタイトルである「宇宙・人間・アート」にまつわるお話や女子美とのご縁、宇宙のアートについて、続いて、竹村先生からは、クリエイティブな仕事が科学につながることを、ご自身の研究であるデジタル地球儀「触れる地球」の実演をしながらお話いただきました。お二人の対談では、「触れる地球」の『Sphere』を用いて、制作時のお話や現代技術の今後について語っていただき、学生たちは熱心に先生方のお話に耳を傾けていました。最後に山崎先生からは「自分の分野を好きだなあと感じる体験が一番の原動力になる」と、竹村先生からは「AI技術では出来ない、人間にしかできないことを見つけることは美大に通うみなさんならではの」と学生に語りかけ、大盛況のうちに幕を下ろしました。



百々徹さん  
「着衣の理由」

着衣学者の百々徹さんをゲストにお招きし、『着衣の理由』と題し100万年にわたる着衣の変遷についてお話いただきました。人類が猿人であった頃から講義は始まり、その後、無毛化した人間の「着衣のはじまりは、泥ではないか」と百々さん。泥によるボディペインティングからはじまった着衣が、時代背景や階級制度による着衣の変容をスライドに投影しながらお話いただきました。また、現代のファストファッションの流行による人権や環境問題の他、着衣のはじまりが泥によるボディペインティングとした時、再び現代で電子によるボディペインティングが行われていることからいつまでも変わらない人間の本質について触れました。約90分と限られた時間の中で、濃密な内容の講義に熱心に耳を傾ける学生の姿が印象的でした。



吉村作治先生  
「エジプト発掘の魅力 ~エジプト調査隊・発掘レポート~」

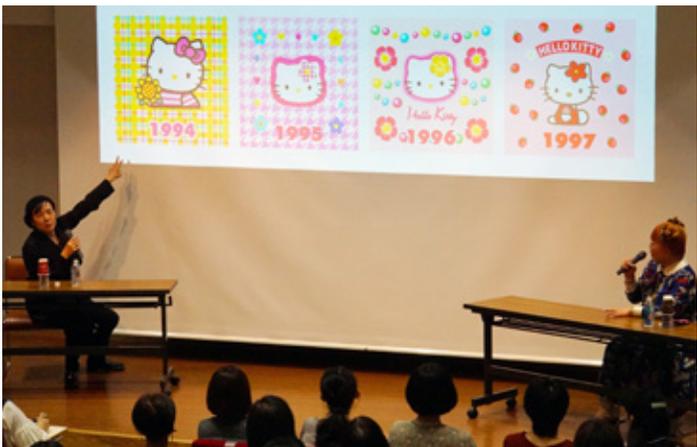
早稲田大学名誉教授、東日本国際大学学長でありエジプト考古学者の吉村作治先生をお招きし、「エジプト発掘の魅力 ~エジプト調査隊・発掘レポート~」をテーマにお話いただきました。エジプトの魚の丘遺跡の発掘をはじめ、これまでに発掘した遺跡の体験談から、電磁波探査レーダーを駆使した発掘、人工衛星の画像解析から発見した遺跡や出土品について紹介されました。中でもダハシール北遺跡で発掘された未盗掘の墓のお話では、同じ場所に埋葬されていた木棺の様子や、コバルトブルーの彩色が施されたミイラのマスク等、画像とともに解説いただきました。エジプト発掘の実体験をもとにお話いただく講義は、学生にとって貴重な機会となり、大きな拍手とともに幕を下ろしました。



いせひでこ客員教授  
「いま、絵本を描くということ」

本学客員教授のいせひでこ先生の講座では、「いま、絵本を描くということ」をテーマにお話いただきました。詩人の長田弘氏の詩『最初の質問』の絵本制作に取り組まれた時には、5歳の記憶をたぐり寄せ、時には想像を描き「絵本とは何か、言葉と対峙することを学んだ」と先生。また、2018年に発売された『見えない蝶をさがして』を発表した経緯や、いせ先生のこれまでの作品の紹介と共に絵との向き合い方についてじっくりとお話いただきました。デジタルツールが普及した現代ですが、自ら取材に赴き、手で描くことを大切にしている先生。最後、いせ先生から学生に向けて「好奇心と記憶は人間が持っている宝、記憶・記録し続けることを意識して、未知の世界を旅してください」とメッセージをいただきました。

# 桃井かおり先生 × 山口裕子さん 特別対談開催



本講座は「宇宙・人間・アート」特別公開講座として、女子美術大学客員教授の桃井かおり先生と、ハローキティ三代目デザイナーとして有名な山口裕子さんの夢の対談が実現しました。

はじめに学生の関心事である「就職活動」について、桃井先生から山口さんに「サンリオに就職しようと決めたまっかけは？」と問いかけられました。

山口さんは、会社が求める「体力に自信がある人」というキャッチフレーズに興味を持ったこと、社長自らが語る社員のやる気と自主性を尊重する社風に「デザイナーは絵を描くだけ」とは言われない、自分にピッタリな会社だ」と思ったと。大学在学中4年間バスケット部に所属した山口さんは体力に自信があり、チームで動くことが好き

だったとも。会社という組織で、

複数の人が関わるようなプロジェクトを成功させるにはチーム力が欠かせない。社会やお客様の求めていることに合わせられる協調性も大事だし、プロデューサー的な感覚も必要要素。仲間と一緒に考え、人の力を借り、うまく利用していくことは個人だけでは出来得ない大きな仕事を可能にする。そこに魅力を感じると。

また、「会社は芸能事務所だと思っている」という言葉も。単なるキャラクターで商品売りのためのデザインではなく、世の中の動き、流行に合わせて「キティ」のようなアイドルを世界にどう売り出すか本気で考えている。それはキティがいつまでたっても古くならない理由」と語られました。

桃井先生も「確かにちょっと昔

は当たり前に使われていた言葉や習慣も、現代ではタブーだったりする。あつという間に流行っていたものが時代遅れになるのが当たり前。時代が変われば仕事も無くなるし、ビジネスのルールも変わる。時代に合わせて変化しているキティはそれを乗り越えているのでは」とコメント。また、最近「インスタグラム」を始めたエピソードから、自ら発信した情報に「いいね」がつくと、最初は嬉しくなっていたけれど、だんだん世間の声を気にして、見ている側に合わせようとする自分が付いたと。

「いいね」をくれた人の言うとおりに生きていたら「自分が何者でも無くなってしまう」とも。流行を取り入れつつも、自分を見失わないことは大事なことを教えていただきました。また、桃井先生は、女優・映画監督の「表現者」の立場から、自ら立ち上げた仕事をする楽しさについては、「コロコロ転がっ

てくる石を拾う感覚。作戦が先にあつて目標を定めるのではなく、作ってしまったことに対して、どうマイナスに見せないようにするか後からセールスする。直感を信じている」と話されました。

授業は、学生からのユニークな興味深い質問に答える形で、お二人は和やかに会話を交わされながら、楽しい雰囲気の中進行しました。最後に、山口さんから女子美生に向けて「今、やりたいことをやってください。何歳になっても心の持ちよう。いつも『やりたいことをやろう』と思う気持ちを持ち続けてほしい。気持ちを持たないと、歳をとってやりたいことが無くなりますよ」とメッセージが送られました。

卒業して社会で活躍するために、「企業での仕事」「フリーの仕事」とそれぞれの立場からの経験とアドバイスが語られ、学生にとっては大変有意義な時間となりました。

Q 6 大学時代にやっておくべきことについて、アドバイスををお願いします。

大学時代とは、友人関係、新しい人々に出会うすばらしい時代。さらに、自分で一人きりになれる時間の多い時代でもあります。我を見つめ、新しい人々と出会い、友情を深め、利益を考えず、興味を深めていける貴重な時間だと思います。いろいろなことにチャレンジできるいい時期ではないでしょうか。

Q 7 海外で制作・仕事をするための“楽しさ”を教えてください。

私は、女子美を卒業した後、直接スペイン、マドリッドにやってきました。他の国々を回るのはなく、マドリッドでずっと生活しています。今になって気づいたことは、言葉を学ぶことで、違った自分を発見できたことです。言葉の違いで考え方も変わってくることに気づき、スペイン、日本二つの文化を垣間見ることができた気がします。考え方も柔軟になり、人生に対しリラックスした視野を持つことは仕事の楽しさにつながります。

Q 8 やりたいことや夢を実現するためのヒントを教えてください。

ここまで生きて来て、目的、夢が的確な場合、絶対実現すると確信できたことです。一番難しいのは、自分の夢、やりたい事が、具体的にどういう事であるかを本当に知ることだと思います。反対に、夢、希望が的確な場合、夢、希望とは呼ばなくなり、やらなくてはいけないことに変わる気がします。自分の本当の夢、心の底で臨んでいることを見つけるのが大切だと思います。

Q 9 後輩(女子美生)に一言メッセージをお願いします。

女子美と聞くと今、不思議な気持ちになります。特に海外で制作していると、女子美・女性だけの美術大学卒業という、説明するのも難しくなります。現代社会で男女の平等が進む中、私が出た大学が何か女性だけ隔離されているような日本では男女が別に教育されているような不思議なイメージも湧いてきて、困ることもあります。海外に来ると、女子美の先輩が多いのです。女子美の概念は説明に困りますが、結果的に社会で活躍する女性、海外で活躍する女性アーティストの中に、女子美出身の方が大変多いことにも驚かされます。女子美には、歴史の深さ、そして特別な雰囲気、学びがあります。これからも、さらに新しい女子美卒の女性たちの輝きを期待し祈っております。



『FUNYUSHI (浮雲遊子)』木にアクリル画 130×320cm ときの忘れ物画廊蔵 2009年VOCA展стен作品



『SHIKI-BLUE』絹にアクリル画 27×22cm

**根岸文子(ねぎし ふみこ)**  
 美術家。1993年芸術学部絵画科洋画専攻(版画)卒業。卒業後スペインにわたり版画工房で学ぶ。スペイン国内版画展で新人賞、名誉賞を受賞。モハカ絵画奨学コース(スペイン)等を受ける。スペイン各地で展覧会、個展を開催。日本でも画廊、VOCA展、葦崎大村美術館コレクション展に出展。現在、スペインに在住し制作活動をつづける。2019年4月11日～20日駐日スペイン大使館にてKIMONO-JOYA展を開催。  
 URL [www.venecianastewenson.com](http://www.venecianastewenson.com)

根岸文子



2019年マドリッド個展・OPEN HORIZONS galeria HGcontemporary



『el nacimiento』絹にアクリル画 130×89cm

Q 1 なぜ海外で活動・仕事することを選んだのですか?

私は洋画専攻版画コースを卒業しました。日本画も個人的に大好きでしたが、制作する中で、いつも中心的存在が洋画でした。特に近代・現代の洋画に興味があり、世界を広める意味でも海外で勉強したいと思っていました。

Q 2 女子美時代は、どんな学生でしたか?

高校から、女子美でした。個性が強い学生に囲まれ、刺激が多かったですが、性格がマイペースなので自分なりの学生時代を過ごしました。大学では、2年から相模原キャンパスに移り、広々とした校舎で朝から晩まで制作できた思い出があります。

Q 3 女子美時代の印象深い思い出を教えてください。

やはり、高校から通っていた、東京の杉並キャンパスを出て、相模原キャンパスに移ったのが印象に残っています。少々、都心からは不便なところでしたが、その一方、大学校内に長い時間残って制作ができた気がします。版画コースは人数もコンパクトで、先生との距離も感じないくらい身近に接していただいて、大変楽しかったことを思い出します。

Q 4 美大の中でも、女子美を選んだのはなぜですか?

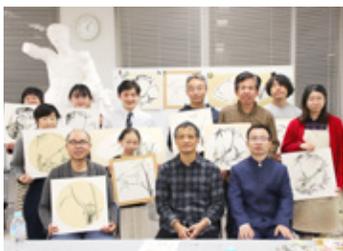
付属高校から女子美に通っていたので、当たり前のように美大に進みました。祖父、祖母も美術を学び、さらに母も女子美を卒業しています。もちろん、家庭環境においても歴史の長い女子美を勧められ、自然の流れのように女子美を選びました。

Q 5 制作・仕事をする上で大切にしている考え方を教えてください。

今、私が最も大切にしたいことは、自分が満足できる作品を制作することです。消費過剰の世の中に暮らし、作品をより多く、大きなものを作るのではなく、少なくとも、小さくとも、人に見せるためではなく、自分にとって大切な作品を満足のいくまで制作したいと思っています。



左から  
夏恵瑛先生、  
横山勝樹学長、  
詹仁左先生



## 「SPEED FLAT 2018」、開催

2018年12月6日〜9日の4日間、六本木にあるアक्सィスギャラリーに於いて、未来のものづくりのあり方を考えるプロジェクト「SPEED FLAT 2018」の展覧会が開催されました。「SPEED FLAT」とは、デザインプロセスやテーマにもとづいたインスピレーションからデザインの未来を展望する産学共同プロジェクト。本学からはヴィジュアルデザイン専攻3年生17名が参加しました。本学では、人と社会の間にある壁を取り除いた「フラットな」環境をつくりだしたスマートフォンの可能性に着目。さまざまなアプリケーションを使用することによって、時間や場所にとらわれることなく「素早く」デザインすること、取り組みました。展覧会場では、移動しながら指の操作ひ

つで即座にモノが生産できるモバイルオフィスへの試みとして、実際に学生たちがデザインしたトートバッグや、その制作プロセスを展示しました。本展のメインポスターは澁谷克彦先生が手掛けたもので、右上の「SPEED FLAT」のロゴマークは3年生(現4年生)の平野夏音さんが制作したものが採用されています。

### ○指導教員

芸術学部 デザイン・工芸学科  
ヴィジュアルデザイン専攻  
粟辻美早教授、澁谷克彦教授、  
林規章教授

### ○参加団体

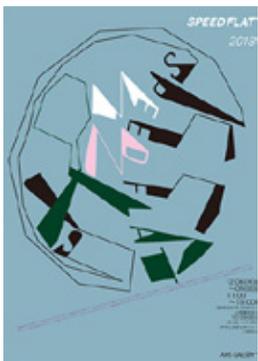
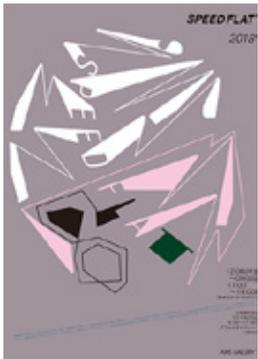
女子美術大学、金沢美術工芸大学、  
首都大学東京、湘南工科大学、  
多摩美術大学、法政大学、  
武蔵野美術大学

## 第8回 百年丹青縁展

— 中日国際交流書画展 上海交通大学・女子美術大学 —

本学と上海交通大学は2013年より、国際文化交流のさらなる発展を目指し中日芸術文化交流のプラットホームとして芸術文化交流を頻繁に行っています。両学で毎年開催している「第8回百年丹青縁展」が本学相模原キャンパスで開催されました。今回の交流展では、上海交通大学及び上海交通大学海派文化研究所の先生方の中国画作品、そして、上海に自身の美術館も持たれ、ニューヨークの国連本部でも展覧会を開催されるなど、中国では大変著名な作家である夏恵瑛先生の中国画作品とともに、本学名誉教授の上葛明広先生と芸術学部美術学科日本画専攻の宮島弘道教授が2017年秋に、景德鎮(中国江西省)に赴き制作を行っ

た陶磁器作品が展示されました。11月16日に開催されたオープンングレセプションでは、上海交通大学を代表し、本学の特別招聘教授も務められている詹仁左先生よりご挨拶をいただくとともに、夏恵瑛先生より本学の横山勝樹学長に自身の画集が贈られました。また、展覧会の開催と合せ、高等学校の美術教員と本学の学生を対象とした中国画特別講習会を開催。詹仁左先生には「花鳥風月画」を、同じく本学の特別招聘教授を務められている吳二平先生には「山水画」の様々な技法を、実演を交え一人ひとり丁寧に指導いただきました。講習会の最後には、先生のお手本を参考にしつつ、全員が素晴らしい中国画の作品を見事に完成させました。



撮影:古熊美帆



### 03 『女子美術大学と衣服教育—その歴史と現在』刊行記念 小倉文子先生×青木明子さん トークイベント

刊行記念企画として、本学名誉教授小倉文子先生と、毎日ファッション大賞新人賞と資生堂奨励賞を受賞されたファッションデザイナーの青木明子さんのトークイベントが11月27日に杉並キャンパスにて開催されました。小倉先生は「創立者の横井玉子先生はデザイナー・クリエイターの先駆者、佐藤志津先生は人と人、人とモノをつなげ、社会に発信するディレクター・プロデューサーの先駆者である」と紹介しながら、女子美の教育にはお二人

の考え方が現代まで脈々と継承されていると話されました。青木明子さんからは「美術やデザインなど様々な分野を学べたことは、広い視野でファッションを捉える良い環境だった。ライフワークとして楽しんで仕事できることを幸せに感じている」と女子美での学びが今に繋がっているとコメントをいただきました。まさしく女子美の歴史と現在を象徴されるお二人の対談は、学生たちにとって-JOSHIBI-style-を継承する大切な時間となりました。



harmony -光--harmony -影-

### 04 女子美工芸 × ムーンバット株式会社 - 伝統と革新 -

東京ビックサイトで開催された国内最大規模のファッションの展示会「IFF MAGIC~JAPAN~2018 Spring」に、本学芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻テキスタイルコース（染・織・刺繍）の学生が制作した「日傘」が展示されました。3年生のグループ制作「テキスタイルマネジメント」の授業で、傘などのファッション製品で名高い老舗企業ムーンバット株式会社と、毛皮や傘製品の製造・販売を行う柴田株式会社の協力のもと、既存概念にとらわれないオリジナルの日傘を目指し共同制作。ビジネスの仕組み、制作工程や技術などを学び、染・織・刺繍の伝統技術を現代に活かした、手仕事による新感覚のもの作りに取り組みました。



### 01 相模原キャンパス 新バスバース完成

相模原キャンパスでは、教育・学生生活環境の充実と共に美観の向上を図るため、バスバースから正門を経て中庭に至る動線の景観と機能を改善する改修工事を平成29年から3ヵ年計画で実施しています。昨年夏に行った中庭の改修に続き、この度、新バスバースが完成いたしました。



### 02 女子美 × パナソニック 三井住友銀行で動画作品を上映



芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域とヒーリング表現領域の3年生の授業科目「プロジェクト&コラボレーション演習」の中で、パナソニック株式会社と女子美生のプロジェクト授業が実施されました。メディア表現領域の内山先生を中心に、植木先生、金先生により名付けられた「超大型画面制作プロジェクト」は、公共空間におけるデジタルアートの可能性を探求し、日本の魅力を伝えるコンテンツづくりがテーマ。6週間という短期間で仕上げなければならない中でも、テーマの面白さから学生のモチベーションは高く、切磋琢磨しながら動画制作にチャレンジしました。作品は、パナソニック株式会社の皆様のご協力をいただき、7名の学生がブラッシュアップして、都会のビジネス街にある三井住友銀行汐留出張所に約5か月間上映されました。



## 07 | 仲條正義客員教授 × 奥村靱正客員教授 特別講義開催

芸術学部デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻客員教授の仲條正義先生と奥村靱正先生による特別講義が10月に相模原キャンパスで開催されました。毎年デザイン・工芸学科の学生を対象に行われる特別講義で、今年のテーマは「パロック」。平面、立体、映像作品等と異なる表現による19作品が集結しました。先生方は作品や制作の取り組み方など学生と対話しながら、それぞれの作品を講評。プレゼンテーション

終了後には、仲條賞3作品、奥村賞2作品が発表されました。最後に先生方より「これからのデザインには、パウハウスの合理性とは異なる『余分なもの』や『過剰さ』といった要素が必要になってくるのではという意識から、テーマを決めた。学生の皆さんには少し難しいテーマだったかもしれないが、みんな自分なりにテーマを解釈して作品に落とし込んでいた」と総評をいただきました。



## 05 | 女子美術大学 × 国立台湾芸術大学 高山村 × 烏來区ウライの地域デザイン制作

長野県高山村と台湾の新北市烏來区の地域づくり活動として、本学と学術交流協定を結んでいる国立台湾芸術大学と地域デザイン制作を行いました。2018年11月には、国立台湾芸術大学の国際会議場で本学の学生4名と台湾芸術大学の学生3名による作品発表会を開催。温泉観光地としての共通点を持つ高山村と台湾の新北市烏來区を結ぶ作品の発表が行われました。両学の学生は8月に両地域を取材訪問し、作品を制作してきました。発表会では、ポスター、テキスタイル、空間設計、絵画、服と多岐にわたる作品の他、学生合同企画によるワインラベルのデザインも発表。その後、烏來区役所にて区長と観光産業課にプレゼンを行い、両地区、両大学がこれからも地域づくり交流活動を進めていくことに合意しました。地域デザイン制作の様子はドキュメンタリー映像にまとめられ2019年1月に台湾で放映されました。



## 08 | 女子美 × 文化財レスキュー 「甦る。ふるさとの宝物 —津波で被災し修復された 陸前高田市立博物館所蔵品—」展覧会

本学杉並キャンパス110周年記念ホールにおいて、「甦る。ふるさとの宝物」展が開催されました。2011年東日本大震災で未曾有の自然災害発生を受け、陸前高田市立博物館では文化庁の支援を得ながら、国内の様々な機関と連携し「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関連携に関するプロジェクト」を立ち上げました。展覧会では、本学が2012年より被災した染織品の保存修復に取り組んでいる染織資料を中心とした安定化処理後の資料とその手法が公開され、関連イベントとして講演会、安定化ワークショップなども開催されました。「この展覧会を通じ、未だ救出されたままの状態で待っている膨大な数の資料の再生が円滑に進み、被災地の博物館機能再生に寄与すると共に、今後発生が懸念される大規模自然災害に備えることができれば、大きな喜びです」と主催者の願いを多くの方々に伝えることができました。



## 06 | ドイツ・イギリスの協定校にて サブミクロン・ナノ粒子による研究の成果発表を開催

本学との学術交流協定校であるドイツのフリードリヒ・アレクサンダー大学とイギリスのパーミンガム・シティ大学において、2018年10月から11月にかけて副学長で芸術学部美術学科日本画専攻教授の橋本弘安先生とデザイン・工芸学科工芸専攻助教の荒姿寿先生によるサブミクロン・ナノ粒子による研究成果発表が行われました。橋本先生は、長年にわたり日本画の岩絵具の製造、研究を行ってきました。岩絵

具の製造で用いられる最新技術を利用して、日本画のみならず、工芸、プロダクトデザインなど幅広い美術分野へ製造した顔料を展開しており、これまでの成果物として、本学デザイン・工芸学科の協力のもと和紙、染織、刺繍、陶、ガラス、プロダクトの他、顔料のインクジェットプリンター出力による作品が各大学に展示されました。本学は学術機関としてこれらの素材研究を今後も継承していきます。

## アートミーツケア学会2018年度総会・大会 女子美術大学で開催

11月3日、4日アートミーツケア学会が、共催会場として杉並キャンパスで開催されました。大会では「アートを計測するーエビデンスってなに?ー」というテーマで、医療や福祉施設、コミュニティーなどでさまざまな形のアート活動が実践されている中、アートにはどのような効果や効果があるか評価指標のあり方について問題提起や議論、情報交換が行われました。本学からは、アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域の先生方が、研究や取り組みの発表者、ファシリテーターとして参加。様々な専門分野の方々に、ヒーリングアートの取り組みを紹介することができました。また、近い将来に向けて社会的課題とアート活動をエビデンスによりどのように融合させ、継続・発展させるかを話し合う有意義な大会となりました。



## 洋画専攻4年生有志「Q,からA,への道しるべ」卒業制作学内展示

芸術学部美術学科洋画専攻4年生の有志が企画する卒業制作の学内展示「Q,からA,への道しるべ」が、12月に相模原キャンパスで開催。内覧会初日には、国立新美術館の学芸員である本橋弥生さん、2日目には現代アーティストである小松美羽さんをゲストにお迎えして講評会が行われました。学生が作品に込めた思いや、コンセプトなどを話し、本橋さんより学芸員の目線で作品や効果的な展示方法のアドバイスをいただきました。総評では、学生の展示作品に関するお話のほか、国立

新美術館での学芸員としてのお仕事についてもお話いただき、貴重な時間となりました。また、小松さんからは、ご自身がグローバルに活躍される一方で、アジアに生まれた日本人として作品を発表することを大事にしたいというお話もあり、卒業しても何らかの形で美術とかかわりを持ち、自分の役割を見つけてほしいと学生たちにメッセージをいただきました。講評会は学生を中心に自主的に進められ、最終学年の作品を講評していただく充実した2日間となりました。

## 染織文化資源研究シンポジウム 「礎 解明 継承」開催

2016年より文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に本学が選定され、染織資料を中心とした染織文化資源研究所が設立されました。芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻（刺繍）の歴史と伝統で培われてきた「染織文化財資源の保存修復技術」から得られた知見の蓄積を礎石に修復分野と研究分野の研究報告として染織文化資源研究シンポジウム『礎 解明 継承』が2019年2月25日に相模原キャンパスで開催され、多くの方が聴講されました。

特別対談「女子美の工芸と染織文化資源」  
芸術学部美術学科芸術文化専攻 原聖教授、清水明子名誉教授、大澤美樹子名誉教授、岡田宣世名誉教授、芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻 渡邊三奈子教授

研究成果発表  
岡田宣世名誉教授  
副学長、芸術学部美術学科日本画専攻 橋本弘安教授  
芸術学部美術学科芸術文化専攻 坂田勝亮教授  
芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻 松本博子教授  
芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻 荒姿寿助教（現 准教授）  
芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻 大崎綾子助教（現 准教授）



## 女子美術大学×企業 共創展

さまざまなバックグラウンドをもった企業や団体と積極的な産学連携を展開している本学デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻では、世界でも有数の半導体専門メーカーとして知られるルネサス エレクトロニクス株式会社と2016年度から産学連携授業を行っています。活動開始から3年目となった今年度は、在学生23名、同社新入社員20名の総勢43名が参加し、若い感性的発想を活かしたデザインと新人エンジニアの論理的思考が生んだ技術を融合させた「体験できるプロダクト」を制作。11月には東京ミッドタウン・デザインハブで多数の学外連携プロジェクト成果とともに発表を行い、会場にお集まりいただいた企業の方々や研究所関係者から大きな注目を集めました。

（指導教員：デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻 主任教授 松本博子）





17

### アラブ首長国連邦の アブダビ首長国で開催された 「NAJAH Exhibition 2018」に参加

本学は10月31日～11月2日、アラブ首長国連邦(UAE)のアブダビ首長国で、アメリカ、カナダ、レバノンをはじめとする世界各国の高等教育機関がブースを出展し毎年行われる進学フェア「NAJAH Abu Dhabi 2018」に今年も参加しました。日本から5大学が出展した日本バビリオンでは、現地の生徒や学生に対し、日本留学への動機付け及び日本の理解醸成を目指し、日本の文化や魅力、日本の大学での教育研究内容を発信しました。参加大学の中でも本学は特に注目度が高く、日本のアニメやキャラクター、デザインに高い関心を持つ大勢の来場者で賑わいました。初めて本学を知った現地の高校生や大学生からは本学の「サマー・スクールにぜひ参加したい」という声が多く寄せられました。なお、昨年夏に開催された本学の「インターナショナルサマースクール2018」には、前年度のNAJAHで本学を知ったUAEの学生が10名も参加しました。



16

### 女子美術大学・粉体工学会 連携シンポジウム「芸術と粉体工学」

本学と粉体工学会による連携シンポジウム「芸術と粉体工学」が9月28日に相模原キャンパスで開催。本学副学長で芸術学部美術学科日本画専攻教授の橋本弘安先生をはじめ粉体工学の分野の先生方が登壇され、多くの方に聴講いただきました。

登壇者  
 女子美術大学教授 橋本弘安先生 京都大学教授 宮原稔先生  
 大阪大学教授 内藤牧男先生 横浜国立大学准教授 多々見純一先生  
 アンザワファインテック株式会社 石井利博氏 東京工業大学准教授 松下祥子先生



13

### 2018年度退職された先生方による 最終講義

2018年度をもって退職された勝又俊雄先生、佐藤美智子先生、田桐正彦先生、原 聖先生の最終講義が行われました。本学で長きに渡り教鞭を執られてきた4名の先生方の各講義には在生はもちろん、卒業生や退職された先生方、教職員の方々が駆けつけました。相模原キャンパスでは勝又先生「ーギリスヤと私ー(付 ヨーロッパ・タベストリーの世界)」、

田桐先生「シャンソン2大名曲を楽しむ」、原先生「失われた30年の楽園」をテーマに開催。杉並キャンパスでは佐藤先生「美の探求者たちー印象主義は絵画をどう変えたのか」と題した講義が行われました。講義終了後には、盛大な拍手と学生や教職員の感謝の気持ちが詰まった花束が贈られました。先生方、これまで本当にありがとうございました。



19

### 千葉県立松戸高等学校と 教育交流に関する協定を締結

千葉県立松戸高等学校と女子美術大学・女子美術大学短期大学部は、相互の交流を通じ、高校の生徒の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学の求める学生像及び教育内容への理解を深め、かつ高校教育・大学教育の活性化を図るために、教育交流に関する協定を締結しました。2018年12月10日、本学杉並キャンパスにおいて、本学の横山勝樹学長、千葉県立松戸高等学校の小野静枝校長出席のもと、協定書の調印式が執り行われ、今後、更なる教育交流の充実、発展に向け、両学で取り組んでいくことが確認されました。



18

### 女子美×東工大 ペリパトスオープンギャラリー

女子美術大学大学院美術研究科と東京工業大学大学院総合理工学研究科間で教育研究活動の一層の充実と質の向上を図るため、連携・協力に関する協定を締結しています。その一環として、東京工業大学すずかけ台キャンパスの「ペリパトスオープンギャラリー」に本学学生の作品を展示。今年も新たに本学在学生の作品がギャラリーを彩りました。

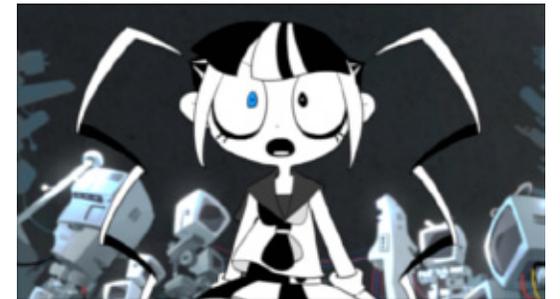


15

### エコプロ2018 開催

国内最大級のイベント『エコプロ2018』に今年も芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻が参加しました。本学は「エコデザイン」の課題授業で取り組んだ「絶滅危惧種保護」に関する成果を紹介。絶滅危惧種の動物たちの生態系等をリサーチし、その存在を社会に知らせるとともにより良い循環を促すための仕組みやプロトタイプを展示しました。また、アップサイクルの提案では、「美サイクルプロジェクト」の活動も紹介し、多くの方に鑑賞いただきました。

○4年生「エコデザイン」授業・産学連携  
 株式会社ビー・シー・シー(REDDATA JAPAN)、日本自然保護協会、中越バルブ工業株式会社  
 ○有志学生プロジェクト「美サイクルプロジェクト」共創企業  
 株式会社ぶんご(B-COMPANY)、社会福祉法人埼玉福祉事業協会  
 廃材提供:山陽印刷株式会社、チーム等々力(有限会社堀端製作所、有限会社十川工業、郡司工業)、ほか  
 ●プロジェクトマネジメント  
 芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻 主任教授 松本博子



芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域卒業 伊石萌花「Teresi's TV Travel」

14

### ICAF2018 開催

今回で16回目となる学生アニメーションの祭典「インターカレッジ・アニメーション・フェスティバル(ICAF)2018」が9月27日～30日に開催されました。全国の大学や専門学校などの教育機関で推薦された学生アニメーションが会場に集結しており、本学からはアート・デザイン表現学科メディア表現領域の学生作品が18本選出。2年次の「アートアニメーション演習」から6作品、3年次の選択授業から7作品、昨年度の卒業制作から5作品が上映されました。

順天堂  
佐藤志津・小川秀興賞

学校法人順天堂と本学は連携・協力に関する協定を締結しており、その一環として2016年度より優秀な卒業制作に対して「佐藤志津・小川秀興賞」を授与いただきました。本年度は以下の学生が受賞し、3月13日に中野サンプラザで執り行われた本学学位・修了証書授与式当日、目録が贈られました。選出された作品は順天堂大学病院等に1年間展示されます。



『01-02』 小林真央  
芸術学部美術学科洋画専攻 (絵画)



『にじゅうよん』 中山利華  
芸術学部美術学科日本画専攻



『此处』 三橋 優  
芸術学部美術学科日本画専攻

2018年度 (第6回)  
女子美栄誉賞

〔副賞 記念品〕

岩立広子  
1956年 芸術学部 美術学科 工芸科 卒業

小泉和子  
1958年 芸術学部 美術学科 洋画科 卒業

2019年度 (第20回)  
女子美パリ賞

〔副賞 100万円〕  
〔パリ国際芸術都市アトリエにて1年間滞在制作〕

角谷沙奈美  
2003年3月 短期大学部 造形学科 卒業  
2005年3月 芸術学部 絵画学科 洋画専攻 卒業  
2007年3月 大学院 美術研究科 美術専攻 修士課程 洋画研究領域 修了  
2015年3月 洋画専攻研究室 専任助手 任期満了  
2015年4月 洋画専攻研究室 非常勤講師  
現在に至る

2019年度 (第13回)  
女子美ミラノ賞

〔副賞 70万円〕  
〔プレ国立美術学院にて6ヶ月間研究・留学〕

浅井夏絵  
2013年3月 芸術学部 ファッション造形学科 卒業

女子美 ベルリン賞

2018年度 (第1回)  
〔副賞 30万円〕  
〔ベルリン クンストラウム・クロイツベルク・ベタニエンアトリエにて1ヶ月間滞在制作〕

杉崎浩美  
2015年6月 パリ・セルジー国立高等美術学校 (フランス) 協定海外留学  
2017年3月 芸術学部 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 卒業

2019年度 (第2回)  
〔副賞 50万円〕  
〔ベルリン クンストラウム・クロイツベルク・ベタニエンアトリエにて3ヶ月間滞在制作〕

宮本華子  
2010年3月 芸術学部 絵画学科 洋画専攻 卒業  
2012年3月 大学院 美術研究科 美術専攻 修士課程 洋画研究領域 修了

2018年度 (第18回)  
女子美制作・研究奨励賞

〔副賞 各20万円〕

今川朋美  
2012年3月 短期大学部 造形学科 デザインコース 創造デザイン テキスタイル 卒業  
2017年3月 茨城県立立間陶芸大学校 卒業  
2018年3月 石川県立九谷焼技術研究所 研究科 卒業

白井ゆみ枝  
2000年3月 芸術学部 デザイン科 造形計画専攻 卒業

田中直子  
2014年2月 フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン=ニュルンベルク(ドイツ) 協定海外留学  
2016年3月 芸術学部 アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現領域 卒業  
2017年4月 ハーミンガム・シテ大学(イギリス)協定海外留学  
2018年2月 女子美ミラノ賞受賞 ミラノ・プレ国立美術学院(イタリア) 研究員派遣  
2018年9月 大学院 美術研究科 デザイン専攻 博士前期課程 アートプロデュース研究領域 修了

2018年度 (第17回) 大学院・大学・短期大学部 女子美美術奨励賞 〔副賞 各10万円〕

チン シェン  
陳子晨 (中国)  
大学院 美術研究科 美術専攻  
博士前期課程 日本画研究領域  
2年在籍



『装』  
2018年/日本画

イン ベイタイ  
尹珮庭 (台湾)  
芸術学部 デザイン・工芸学科  
プロダクトデザイン専攻  
4年在籍



『STORY MAKER』  
2016年/MDF合板/  
木材加工、アクリル絵の具

ソ ソンファ  
徐仙和 (韓国)  
短期大学部 造形学科  
デザインコース 2年在籍



『夕立』  
2018年/メロー、布、ビニール傘、プロジェクター

2018年度 (第20回)  
大村特別賞 〔副賞 記念品〕

第16回 けん玉ペインティングコンテスト  
団体優秀賞受賞者  
(女子美術大学付属高等学校・中学校 中学2年生)  
入賞者  
第16回けん玉ペインティングコンテストにおいて、  
付属中学2年生生徒がエントリーし、団体優秀賞を  
受賞した。さらに、個人でも賞を獲得した。  
日本けん玉協会賞 富永真生  
部門賞 中学の部 前田葉奈  
特別賞 NKKサービスセンター賞 山下真央

湯崎夫沙子  
1960年3月 女子美術大学 芸術学部  
美術学科 図案科 卒業  
1964年 二科展彫刻部銀賞受賞。  
イタリア政府給費を得て留学。  
主にイタリアで活躍しているアニメーター・彫刻家。  
粘土を使ったクレイアニメーション作品を数多く手掛  
けている。受賞多数あり。

東京理科大学賞

学校法人東京理科大学と本学は連携・協力に関する協定を締結しており、その一環として2015年度より優秀な卒業制作に対して「東京理科大学賞」を授与いただいております。本年度は以下の学生が受賞し、3月に中野サンプラザで執り行われた本学学位・修了証書授与式当日、賞状と副賞が贈られました。選出された作品は東京理科大学内に1年間展示されます。

東京理科大学  
学長賞



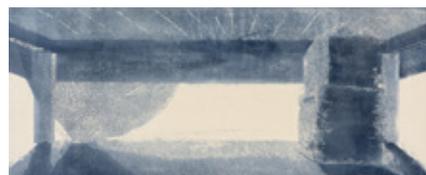
『明日世界があなたを隠したとして』  
酒井紫帆  
芸術学部美術学科洋画専攻 (絵画)

東京理科大学  
坊っちゃん賞



『世界の瞬間』 上谷田弘代  
芸術学部美術学科日本画専攻

東京理科大学  
マドンナ賞



『今日の終着点』 沖田菜佑香  
芸術学部美術学科洋画専攻 (版画)

ギオン相模原大賞  
ギオン相模原奨励賞  
ギオン相模原特別賞

株式会社ギオンは、相模原市に本社を構え「物流・健康・環境」など幅広く事業展開をする総合物流企業で、相模原キャンパスに隣接する「ギオンスタジアム」等のスポーツ施設の指定管理を行うなど、相模原市の地域振興に取り組んでいます。2016年度より同市におけるより一層の芸術文化の発展を目指し、相模原キャンパスに在籍する卒業・修了年次生を対象とする賞を創設いただきました。本年度は、以下の学生が受賞。「ギオン相模原大賞」は副賞として100万円が授与され、作品1点が同社に提供されます。「ギオン相模原奨励賞」は副賞30万円、「ギオン相模原特別賞」は副賞10万円が授与されます。

ギオン相模原奨励賞	美術研究科美術専攻博士前期課程日本画	樋口綾香
ギオン相模原特別賞	美術研究科美術専攻博士前期課程洋画	松島千晶
	芸術学部デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻	加藤乃梨佳
	芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻	伊藤菜々子
	芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻	内谷貴美子

※2018年度「ギオン相模原大賞」は該当者なし

# 2018年度 卒業制作賞・優秀作品賞 等 受賞者

## 2018年度卒業制作展／ 修了制作展 開催

芸術学部・短期大学の修了制作展が杉並と相模原の両キャンパスで行われました。芸術学部と短期大学の展示は3月9日～11日の期間、大学院の展示は3月10日～17日の期間で開催。開催初日である9日には、博士前期課程芸術文化専攻修士論文発表会が相模原キャンパスで行われました。学生生活を締めくくる集大成が見られるため、在学生や保護者のほか、多くの方がキャンパスを訪れました。



### 女子美術大学美術館奨励賞

**美術研究科博士前期課程**  
 伊藤夏実 美術専攻洋画研究領域  
 樋口綾香 美術専攻日本画研究領域  
 森 茜 美術専攻版画研究領域  
 赤坂 董 美術専攻工芸研究領域  
 美術専攻立体芸術研究領域  
 林 欣儀 デザイン専攻ヒーリング研究領域  
 高橋綾子 デザイン専攻ファッションテキスタイル研究領域  
 袁 媛 デザイン専攻アートプロデュース研究領域  
 史 歌 デザイン専攻ヴィジュアルデザイン研究領域  
 王 萌萌 デザイン専攻プロダクトデザイン研究領域  
 朱 辰 デザイン専攻環境デザイン研究領域

### 芸術学部

後藤夢乃 美術学科洋画専攻  
 下重ななみ 美術学科日本画専攻  
 千田瑠璃 美術学科立体アート専攻  
 元尾喜代子 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻  
 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻  
 伊藤菜々子 デザイン・工芸学科 工芸専攻  
 結城日菜 アート・デザイン表現学科メディア表現領域  
 田所萌子 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域  
 岡田えりん アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域  
 荻原 萌 アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域  
 遠藤初穂

### 短期大学部

稲越美咲 造形専攻創造デザインコース  
 三浦安彩 造形学科美術コース

### 短期大学部

阿部涼花 専攻科造形専攻 美術コース  
 丸山百恵 専攻科造形専攻 創造デザインコース  
 井田華野子 造形学科美術コース  
 佐藤えりか 造形学科デザインコース  
 柴田桜花 造形学科デザインコース  
 丸山 爽 造形学科デザインコース

### 優秀研究賞

**芸術学部**  
 岩崎瑠子 美術学科美術教育専攻  
 小野寺 彬 美術学科芸術文化専攻  
 林 恵美 アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

### 福沢一郎賞

**美術研究科博士前期課程**  
 伊藤夏実 美術専攻洋画研究領域  
 岡本珠実 美術専攻版画研究領域

### 大久保婦久子賞

**美術研究科博士前期課程**  
 西川絵里 美術専攻洋画研究領域  
 陳 子晨 美術専攻日本画研究領域  
 村上英里 美術専攻版画研究領域  
 赤坂 董 美術専攻工芸研究領域  
 美術専攻立体芸術研究領域  
 箭内友里乃 デザイン専攻メディア研究領域  
 徐 彦琦 デザイン専攻ファッションテキスタイル研究領域  
 崔 智賢 デザイン専攻アートプロデュース研究領域  
 袁 媛 デザイン専攻ヴィジュアルデザイン研究領域  
 池 晶 デザイン専攻プロダクトデザイン研究領域  
 福岡 蘭 デザイン専攻環境デザイン研究領域  
 山口真歩 デザイン専攻環境デザイン研究領域  
 齋藤桃花 芸術文化専攻芸術表象研究領域

### 女子美術大学美術館賞

**美術研究科博士前期課程**  
 樋口綾香 美術専攻日本画研究領域

### 優秀作品賞

**芸術学部**  
 大石深雪 美術学科洋画専攻  
 小林真央 美術学科洋画専攻  
 澁谷里美 美術学科洋画専攻  
 前田乃映 美術学科日本画専攻  
 元田ゆうか 美術学科洋画専攻  
 青木麻里 美術学科日本画専攻  
 太田美歌 美術学科日本画専攻  
 上谷田弘代 美術学科日本画専攻  
 渋谷佳帆 美術学科日本画専攻  
 三橋 優 美術学科立体アート専攻  
 藤澤栄里 美術学科立体アート専攻  
 小賀野みつき デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻  
 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻  
 佐々木 在 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻  
 佐藤圭珠 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻  
 瀬戸花織 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻  
 齋藤優花 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻  
 古川美波 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻  
 山崎ゆり子 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻  
 上遠野苑美 デザイン・工芸学科 工芸専攻  
 櫻本 茜 デザイン・工芸学科 工芸専攻  
 北村あかね デザイン・工芸学科 工芸専攻  
 中西 彩 デザイン・工芸学科 工芸専攻  
 鈴木 綾 アート・デザイン表現学科メディア表現領域  
 大野史織 アート・デザイン表現学科メディア表現領域  
 竹内祐果 アート・デザイン表現学科メディア表現領域  
 村岡万瑠萌 アート・デザイン表現学科メディア表現領域  
 山本あかり アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域  
 山田幾実 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域  
 今井亜季 アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域  
 大木奏子 アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域  
 菅野優奈

### ノーベル賞受賞記念大村智賞

**美術研究科博士後期課程**  
 朝倉優佳 美術専攻美術研究領域  
 粟田ふみか 美術専攻美術研究領域  
 宮坂真紀子 美術専攻デザイン研究領域

### 加藤成之記念賞・総代

**美術研究科博士前期課程**  
 陳 子晨 美術専攻日本画研究領域

### 芸術学部

後藤夢乃 美術学科洋画専攻  
 長谷川知美 美術学科日本画専攻  
 小野寺 彩 美術学科立体アート専攻  
 鈴木友季恵 美術学科美術教育専攻  
 石井優衣 美術学科芸術文化専攻  
 執行利佳子 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻  
 荒牧 郁 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻  
 鎌田成美 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻  
 大竹美佳 デザイン・工芸学科 工芸専攻  
 海野聖香 アート・デザイン表現学科メディア表現領域  
 板岡優里 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域  
 小倉友里 アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域  
 林 恵美 アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

### 短期大学部

鷺谷万葉 専攻科 造形専攻情報デザインコース  
 井田華野子 造形学科美術コース

### 卒業制作賞

**芸術学部**  
 森辺歩美 美術学科洋画専攻  
 細川友萌 美術学科洋画専攻  
 吉田茉莉子 美術学科洋画専攻  
 内田花奈子 美術学科日本画専攻  
 鈴木ふみ乃 美術学科立体アート専攻  
 加藤乃梨佳 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻  
 河合みなみ デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻  
 河村真奈美 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻  
 見上けいと デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻  
 岩淵 愛 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻  
 松田千春 デザイン・工芸学科 工芸専攻  
 伊藤未桜 アート・デザイン表現学科メディア表現領域  
 甲斐出知美 アート・デザイン表現学科メディア表現領域  
 田所萌子 アート・デザイン表現学科メディア表現領域  
 岡田えりん アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域  
 井村佳奈子 アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域

### 短期大学部

尾崎里樺 造形学科美術コース  
 三浦安彩 造形学科美術コース  
 大澤真理恵 造形学科デザインコース  
 穴倉 恵 造形学科デザインコース  
 徐 仙和 造形学科デザインコース  
 藤岡さや 造形学科デザインコース

### 卒業研究賞

**芸術学部**  
 鈴木友季恵 美術学科美術教育専攻  
 土屋友里 美術学科芸術文化専攻  
 白石智慧 アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域



2018.9.12(水) - 10.20(土) 相模原 女子美アートミュージアム

女子美染織コレクション展Part7 日本の伝統と技

女子美染織コレクション展Part7は、二部構成となっており、第一章では、江戸時代を中心とした日本の「裂(きれ)」を展覧しました。裂は、全体像が見えないため、衣服の形態で現存する資料に較べて軽視されがちですが、裏面から見る「当時の染料の鮮やかな色」や「刺繍の糸の渡り」など、形になった状態では、隠れて見ることで見えない部分が露わになり、当時の面影を知ることができる資料として大変興味深いものです。

本展では、約90点の様々な裂を技法ごとに紹介しました。第二章では、2016年より設立された本学染織文化資源研究所のこれまでの活動と成果の一部をご覧頂きました。関連イベントでは、本学の卒業生で作家としても活躍している藤田千鶴さん(刺繍作家)に刺繍体験教室を、長沢碧さん(染色作家)に型染め体験の講師としてお越しいただきました。短い時間ながらも、小さなお子様にも楽しんでいただける時間となりました。



2018.11.30(金) - 12.18(火) 杉並 女子美ガレリアニケ 2019.1.9(水) - 1.29(火) 相模原 女子美アートミュージアム

平成30年度 女子美術大学退職教員記念展 石とあそぶ 光とあそぶ

芸術学部 美術学科日本画専攻教授の橋本弘安先生と、芸術学部 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域のヤマザキミノリ先生の作品の展覧会を開催しました。

JAM

女子美術大学美術館 コレクション特別公開 織と革

12.3(月) - 12.8(土)

「織と革」をテーマに、染織コレクションから16～18世紀の西欧の大型タペストリーと本学出身の皮革工芸家、大久保婦久子の作品を紹介しました。

平成30年度 女子美術大学大学院博士後期課程研究作品発表展

2.9(土) - 2.15(金)

平成30年度 女子美術大学大学院博士後期課程を修了する美術研究領域(版画)栗田ふみかの研究作品展を開催しました。

平成30年度 女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展

3.10(日) - 3.17(日)

平成30年度に本学大学院博士前期課程美術研究科を修了する学生が制作した作品の展覧会で、相模原キャンパス(女子美アートミュージアム)では、洋画、日本画、版画、工芸(染、刺繍、ガラス)、立体芸術、ヴィジュアルデザイン、プロダクトデザイン、環境デザインの領域を専攻した学生の作品を紹介しました。

女子美ガレリアニケ

第11回 五大学合同写真展 ○展

11.9(金) - 11.24(土)

女子美術大学、東京工芸大学、長岡造形大学、多摩美術大学、中国伝媒大学の五つの大学でそれぞれに写真を学ぶ学生の写真作品展を開催しました。

女子美術大学AP(アートプロデュース表現領域)卒業・修了制作展 JOSHIBI AP Graduate Degree Show 2018

1.18(金) - 1.29(火)

アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域4年生・大学院生による卒業・修了制作を展示しました。

ニケキュレーターズセレクション#04 藤岡ちさ展

4.12(金) - 5.22(水) 本学出身のアーティスト藤岡ちさによる楽しいイラストの絵本『リリーとナッツ ゆきのクリスマス』を中心とした、初の原画展を開催しました。

歴史資料展示室

『女子美術大学と衣服教育—その歴史と現在—』刊行記念 女子美の衣服教育展 前期 5.23(水) - 8.3(金) 後期 9.12(水) - 1.25(金)

『女子美術大学と衣服教育—その歴史と現在—』(2018年)の書籍刊行を記念し、本学が現在まで綿々と培ってきた衣服教育の歴史を紹介しました。

JAM

女子美術大学美術館コレクション展 作品と授業をつなぐ試み

6.26(水) - 8.3(土)

女子美術大学美術館のコレクションを、学芸員養成課程の学生が制作した鑑賞ツール等とともに展示します。

女子美染織コレクション展Part8 コプト

11.13(水) - 12.21(土)

女子美染織コレクションより、エジプトで栄えた織物を主とした織物をご紹介します。

2019年度女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展

3.8(日) - 3.12(木)

2019年度に大学院博士前期課程を修了する洋画、日本画、版画、工芸(染、刺繍、ガラス)、立体芸術、ヴィジュアルデザイン、プロダクトデザイン、環境デザイン研究領域の学生作品を展示します。

女子美ガレリアニケ

女子美術大学短期大学部1年前期基礎造形展

7.5(金) - 7.31(水)

短期大学部1年生が自由選択授業で制作した18講座の学生作品を展示します。

女子美スピリッツ2019 岡田節子展

10.11(金) - 11.1(金)

本学出身で名誉教授の洋画家 岡田節子(1917-2008)の作品を展示します。

2019年度女子美術大学退職教員記念展

11.29(金) - 12.18(水)

2019年度に本学を定年退職される実技系教員による展覧会です。

2019年度女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展

3.8(日) - 3.12(木)

2019年度に大学院博士前期課程を修了するメディア、ヒーリング、ファッションテキスタイル、アートプロデュース研究領域の学生作品を展示します。

歴史資料展示室

佐藤志津没後100年記念展 佐藤志津と私立女子美術学校

3.8(金) - 7.15(月・祝)

本学初代校長・二代校長の佐藤志津の生涯と功績を紹介しています。

平成30年度 女子美術大学退職教員記念展 石とあそぶ 光とあそぶ

1.9(水) - 1.29(火)

芸術学部 美術学科日本画専攻教授の橋本弘安先生と、芸術学部 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域教授のヤマザキミノリ先生の作品の展覧会を開催しました。

私立大学研究ブランディング事業 女子美術大学染織文化資源研究所 報告展 染織文化の探求と創造 彩・綴・綾

2.23(土) - 3.2(土)

女子美術大学の染織文化資源研究所「私立大学研究ブランディング事業」3年間の研究成果報告展として、これからの染織資料の研究の発展を担う研究所の活動とこれまでの成果を紹介しました。

SPEED FLAT / 未来のものづくりを考えるデザインプロジェクト

4.24(水) - 6.8(土)

2016年よりはじまった未来の創生デザインのあり方を考えるデザインプロジェクト「SPEED FLAT」の研究活動について、参加7校(金沢美術工芸大学、首都大学東京、湘南工科大学、女子美術大学、多摩美術大学、法政大学、武蔵野美術大学)の作品をご紹介します。

平成30年度 女子美術大学退職教員記念展 石とあそぶ 光とあそぶ

11.30(金) - 12.18(火)

芸術学部 美術学科日本画専攻教授の橋本弘安先生と、芸術学部 アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域教授のヤマザキミノリ先生の作品の展覧会を開催し、その後女子美アートミュージアムへ巡回しました。

平成30年度 女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展

3.10(日) - 3.17(日)

平成30年度に本学大学院美術研究科を修了する学生が制作した修了制作作品の展覧会です。杉並キャンパス(女子美ガレリアニケ)ではメディア、ヒーリング、ファッションテキスタイル、アートプロデュースの領域を専攻した学生の作品を紹介しました。

第41回 造形「さがみ風っ子展」

10.25(金) - 11.2(土)

相模原市内小中学生の造形作品展です。

2019年度女子美術大学退職教員記念展

1.8(水) - 1.28(火)

2019年度に本学を定年退職される実技系教員による展覧会です。

第9回百年丹青縁展 中日国際交流書画展

9.17(火) - 10.4(金)

女子美術大学と上海交通大学教員による学術研究交流展を開催します。

第12回 五大学合同写真展 ○展

11.8(金) - 11.22(金)

女子美術大学、東京工芸大学、長岡造形大学、多摩美術大学、中国伝媒大学の五つの大学でそれぞれ写真を学ぶ学生の写真展を紹介しました。

AP(アートプロデュース表現領域)卒業・修了制作展

1.17(金) - 1.28(火)

アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域4年生・大学院生による卒業・修了制作の作品を紹介します。

2019年度収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み

9.18(水) - 3.12(木)

収蔵資料により本学の歩みを紹介する平常展を開催します。